小学校　外国語活動・外国語科　／　中学校　外国語科

Learning by Doing

これから求められる
外国語教育における授業づくり

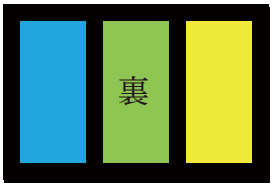
いよいよ小学校は令和2年度から、中学校は令和3年度から新学習指導要領が全面実施となります。八代市は、小学校外国語教育において平成30年度より先行実施を行ってきました。本リーフレットは、この期間に実施した公開授業や研修から授業づくりのポイントをまとめたものです。

タイトルの「Leaning by Doing」とは、「為すことによって学ぶ」というデューイの言葉です。児童生徒も先生も経験しながら学んでいってほしいという願いを込めて、このリーフレットを作成しました。ぜひ授業づくりのヒントとして活用していただき、「英語が楽しい!!」と思う児童生徒を育てていきましょう。

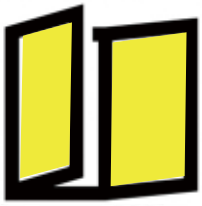
☆　リーフレットの使い方　☆

【小学校編】裏返して右を折る

【共通編】裏の中央



【中学校編】裏返して左を折る



【引用文献・参考文献】『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語活動・外国語編』／『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語編』／小学校外国語活動・外国語　研修ガイドブック（文部科学省）／

八代市教育サポートセンター　英語教育研究部会

〔平成31年度〕　髙嶋　宏幸（麦島小）　吉住　菜月（松高小）　有働　有里子（金剛小）
下田　晶子（八千把小）　梅田　里香（麦島小）　岩本　佳子（文政小）　町田　梨紗（泉小）
寺本　亜希子（第二中）　林　るか（二見中）　有田　優子（学校教育課）
〔平成30年度〕　澤村　雄二（第一中）　久保　雅美（鏡中）

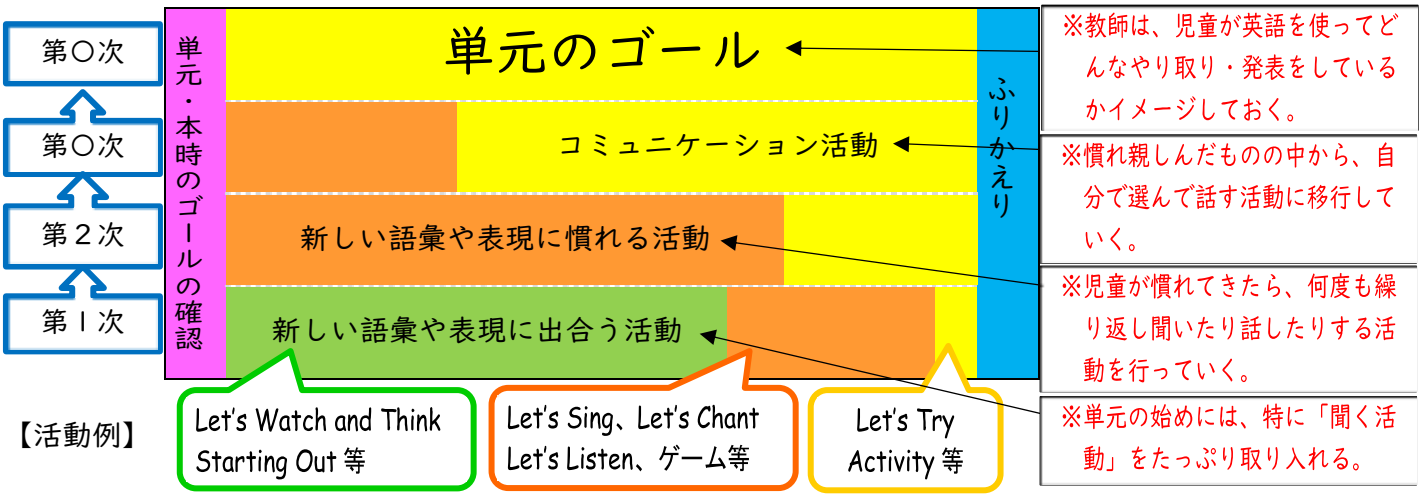
Learning by Doing　これから求められる外国語教育における授業づくり

発行日　令和２年３月
編集者　八代市教育サポートセンター
発行者　所長　沖村　巧
〒869-4703　熊本県八代市千丁町新牟田 1502 番地１
TEL 0965-30-1667　FAX 0965-30-1670　URL http://e.yatsushiro.jp/kenkyusyo/

【小学校編】

活動の組み立ての考え方

単元のゴールに向け、１時間の授業におけるコミュニケーション活動の量を少しずつ増やしていきましょう。



デジタル教材の効果的な活用

※八代市教育サポートセンターホームページに動画あり

「新しい語彙や表現に出合う活動」や「新しい語彙や表現に慣れる活動」では、すぐにデジタル教材の映像資料やイラストを使って活動するのではなく、活動の前後を工夫します。これにより児童は活動を自分事として捉え、主体的に学習に臨むことができます。Let's Watch and Think, Starting Out, Let's Listen など、単元で扱う言語材料や言語表現に出合ったり、やり取りに慣れたりする活動で工夫しましょう。(Let's Try! 2 Unit2 より)

≪Let's Watch and Think の活動例≫

①紙面を見ながら、絵や写真について簡単なやり取りをする。
②映像全体を視聴させ、児童が聞き取った語句や分かったことを出し合う。
③必要に応じて複数回視聴させ、聞き取れたことから内容を推測させる。

前
子供たちは何をしていますか。
How's the weather?（どんな天気かな。）
Hot? Cold?

後
Tell me what words you heard.
聞こえた言葉を教えてください。
What did you hear?
何が聞こえましたか？

どんな言葉や内容が聞こえたかを出し合ってみましょう。

≪Let's Listen の活動例≫

①児童と既習表現を使って簡単なやり取りをする。
②Let's Listen を視聴する。
③Let's Listen の表現を使ってやり取りをする。

(NEW HORIZON Elementary5 Unit6 より)

T: What's this?
S: It's a salad.

T: Do you like pizza?
S: Yes, I do.
T: You like pizza. Me too.

T: ○○*san*, What would you like?
S: I'd like *gyoza*.
T: OK. Here you are.
S: Thank you.

Classroom English の活用

クラスルームイングリッシュは「英語の授業の雰囲気づくり」につながります。児童は英語を使おうとする教師の姿から、英語学習に向かう姿勢を学び、やがて児童同士でのやり取りでも英語を使うようになります。児童の目を見て、ゆっくり、はっきり言うようにして、動作や絵を用いて理解を助けるようにします。場合によっては日本語で補いながら、教師の意図することが全ての児童に正しく伝わるようにしましょう。

高学年「Small Talk」

※八代市教育サポートセンターホームページに動画あり

〇２時間に１回程度設定し、既習表現を繰り返し使用させることで定着を図る言語活動です。
〇対話を続けるための基本的な表現の定着を図ります。
（例）対話の開始(Hello.)　対話の終了(Nice talking to you.) 確かめ(Pardon?) 一言感想(That's good!)
繰り返し(I went to Tokyo.⇒Oh, Tokyo.) さらに質問(I like fruits.⇒What fruit do you like?)

指導例【５年】　主に**指導者と児童がやり取り**をしながら進めるインプット中心で行う。

①教師の話を聞く

・教師は既習表現を使いながら本単元の学習に関わる話題を話す。
・児童は既習表現を想起したり、話の流れやジェスチャーなどから意味を推測したりしながら聞く。

②教師と児童のやり取り

・教師は①で使用した表現を使って、児童に質問する。
・児童は教師からの質問に答える。

指導例【６年】　主に**児童と児童がやり取り**をすることを中心に行う。

①児童と児童のやり取り（１回目）

・児童は、教師が提示した話題から会話を始め、質問したり応答したり、相手の発話に対して反応したりしながら会話を広げていく。

②指導

・児童が伝えたかったが英語で表現できなかったことはないかを確認する。
・リアクションや、やり取りが上手くできていたペアの会話を見せて、よかったところに気付かせる。

③児童と児童のやり取り（２回目）

・児童は②で気付いたことを意識しながら、相手を替えてもう一度やり取りをする。

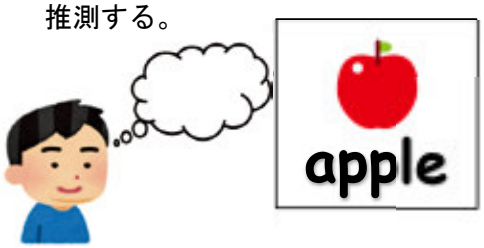
高学年「読むこと」「書くこと」の指導

小学校第５学年及び第６学年の外国語科では、文字を読んだり書いたりする活動を行います。しかし、**小学校の英語教育が音声中心であることは変わりません。**外国語においては、児童が「読みたい」「書きたい」と思える必然性のある場面で、**音声で十分に慣れ親しんだ内容について、児童の負担にならないように丁寧に指導**していくことが大切です。

読むこと

●活字体で書かれた文字の名称を発音できる。

●音声で慣れ親しんだ英語を見て推測する。



書くこと

●大文字・小文字を活字体で書くことができる。
●音声で慣れ親しんだ語句や表現を書き写すことができる。
●例文を参考に、音声で慣れ親しんだ語句や表現を書くことができる。

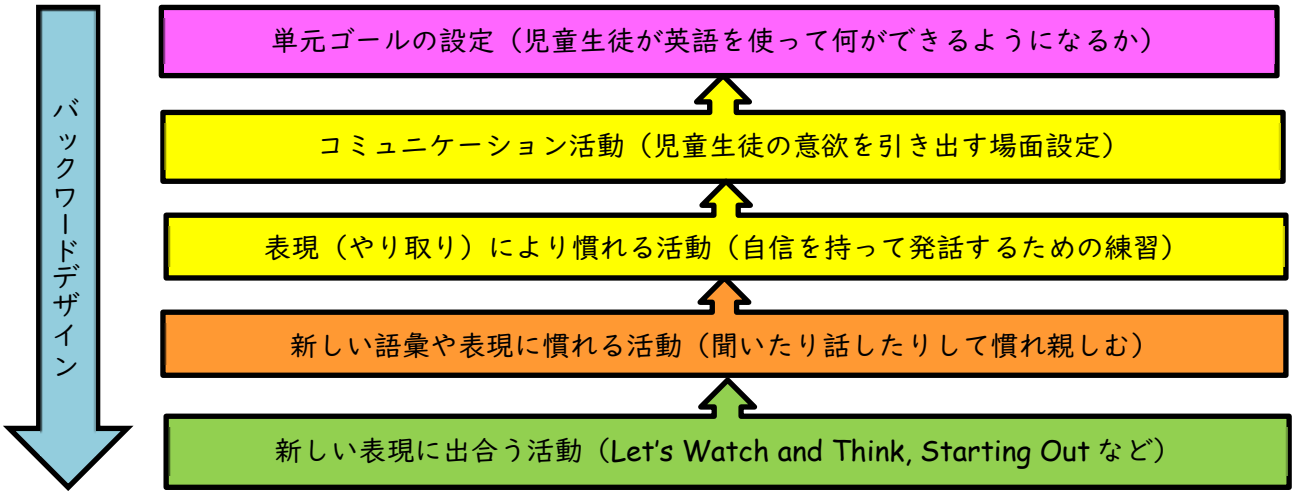
下の語句の中から赤丸の語句を選んで書き写しています。

教師の例文を参考にして、４線上には自分のこと、本当のことを書いています。

【小中共通編】

単元のゴールを見通した授業づくり

授業づくりにおいて大切なのは、単元のゴールの姿を具体的に設定することです。単元終末に楽しんでコミュニケーションを図る児童生徒の具体の姿（児童生徒が英語を使って何ができるようになるか）をイメージしながら授業をデザインします。このように１単元の授業づくりは、単元のゴールから逆向きに設定する「バックワードデザイン」で行います。

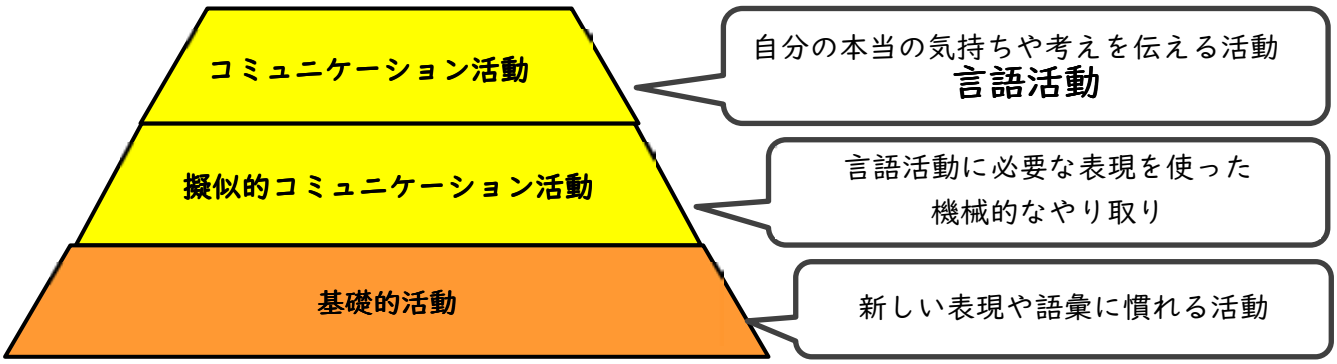


必然性のある言語活動

小学校第３学年及び第４学年の外国語活動、小学校第５学年及び第６学年の外国語科、また中学校の外国語科、全ての段階において、それぞれの目標に示されている資質・能力は「言語活動を通して育成する」とされています。言語活動とは、「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う」活動のことです。

そのため、言語活動をするために必要な言語材料について理解したり練習したりするための指導とは区別されています。例えば、発音練習や歌、チャンツなどは、言語活動ではなく練習です。練習は、言語活動を成立させるために重要な活動ですが、練習だけで終わることがないように留意する必要があります。

授業では、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確にした言語活動を設定し、児童生徒にとって必然性のある活動を効果的に設計しましょう。「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、指導者は深い児童生徒理解を基盤として、児童生徒の思考が活性化される授業づくりを行いましょう。



コミュニケーション活動の位置付け

【中学校編】

小中接続の重要性

小学校での外国語教育の早期化・教科化により新入生の実態が変わります。新学習指導要領の全面実施により学習内容も変わります。これまで以上に小中接続を意識した授業を実施することが必要になってきます。

○Small Talk(帯活動)

小学校の高学年で２時間に１回、授業の導入で取り組んでいる Small Talk は、既習表現を使って即興で先生や友達と対話をする取組です。中学校でも継続して Small Talk に取り組み、「即興で伝え合う力」を高めていく必要があります。(詳細は小学校のページをご覧下さい。)

○小学校教材の活用

小学校の教材を活用することで小中のよりスムーズな接続ができます。

【活用例】

- ◇ チャンツ：ドリル練習や表現の幅を広げるために活用できます。
- ◇ 絵カード（大小）：ドリル練習や言語活動で活用できます。
- ◇ Let's Watch and Think（動画）：基本文の導入や復習として活用できます。

○小中連携

小学校と中学校でお互いに授業を参観し合うことはとても大切です。特に中学校にとっては、入学してくる生徒がどのように、どの程度まで外国語を勉強してくるのかを知った上で授業をする必要があると思います。実際に小学校の授業を参観すると、小学校の教材を活用しやすくなると思います。

授業を実際のコミュニケーションの場とする

新学習指導要領に、「生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるようにすること」と書かれています。特に以下のような点を心がけると、授業を実際のコミュニケーションの場面に近づけることができます。

○Classroom English：教師が、活動の指示や生徒の反応に対する返しを英語で行う。

（例）Make groups of four. Put your desks back.

Well done. So close. Nice try. Louder, please. It's your turn.

生徒が、友達への返しや教師に対する質問を英語で行う。

（例）Really? That's nice. I see. Me, too. How about you?

I have a question. How do you spell ~? Could you say that again?

生徒同士が、Small Talk 等コミュニケーションをとる場面を増やす。

○新文型の導入：ALT と JTE または JTE と生徒が英語で対話したり、JTE が英語でプレゼンしたりして、英語で新文型を導入する。その際、その言語材料を使う必然性のある場面設定になるように工夫する。

（例）【受け身の導入】（プレゼンで京都の写真を見せながら）

This is a picture of Kyoto. I visited Kyoto last month. I saw a lot of people there.

<u>Kyoto is visited by many people from all over the world.</u>

○言語活動の工夫：「型を与えその通りに表現させる」指導から脱却する。生徒が、自然な場面設定の中で自分で思考・判断して、英語を使う活動になるように工夫する。

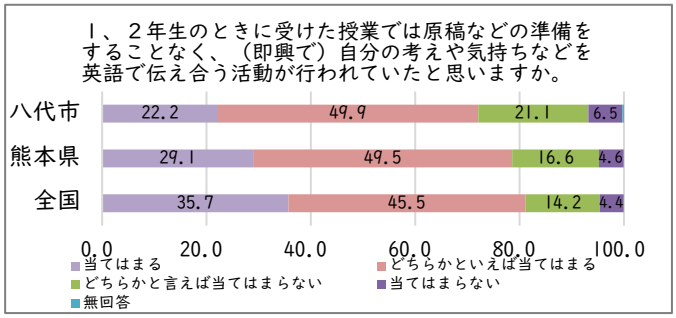
生徒が「英語を使う」授業へ

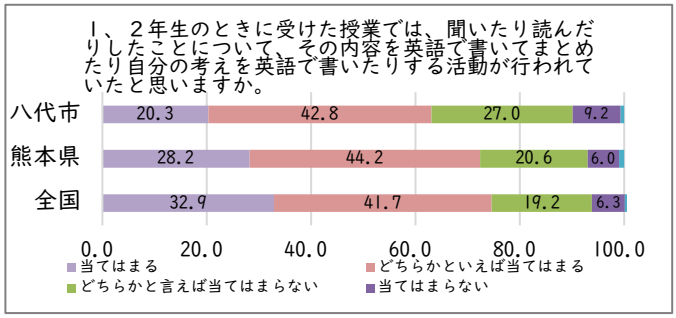
生徒は小学校４年間を通して、英語によるたくさんのやり取りを楽しみながら経験し、英語に慣れ親しんできています。今後の英語教育では、コミュニケーションの目的や場面、状況などを明確にして、生徒同士のインタラクションを大切にした言語活動を中心に授業を行うことが求められています。

自分の普段の英語の授業を振り返ってみましょう。

- □ 単元の終末に英語を使ってどんなことができるようになるかを生徒が理解していないまま授業が進む。
- □ １時間の授業のゴールが語や文法事項を覚えさせる習得になっていて、活用までできていない。
- □ 教科書を扱う際、和訳や説明で終わるような「教科書を教える」授業になっている。
- □ 授業において、生徒より教師の方が英語・日本語共に話している時間が多くなっている。
- □ 生徒に文法事項を説明し十分に練習問題に取り組ませてからでないと、コミュニケーション活動に取り組ませていない。

今後求められる力を生徒に付けていくためには自らの授業を客観的に振り返り、授業改善を行っていく必要があります。上記の項目に一つでもチェックがついたら改善に取り組んでみましょう。





＜平成３１年度全国学力・学習状況調査質問紙調査より抜粋＞

上に示した調査結果の項目によると、本市では、授業において生徒が実際に「英語を使って自分の考えや気持ちを伝え合う」活動が不足しているといえます。新学習指導要領では、個別の知識がどれだけ身に付いたかに主眼を置くのではなく、実際に活用する活動を充実させ**言語活動の実質化**を図ることが求められています。英語で自分の考えや気持ちを伝え合うことができる生徒を育てましょう！

単元の構想　～バックワードデザインで～

単元をデザインする際には、まずＣＡＮ－ＤＯリストに基づいて単元の目標を設定します。その際、単元終末の生徒の具体の姿をイメージして、１時間ごとの目標や活動につながりをもたせることが大切です。

こんな授業になっていませんか？

単元のゴール：自分の学校を紹介しよう
１時間目・・言語材料の練習
２時間目・・教科書 Part１の内容を理解しよう
３時間目・・言語材料の練習
４時間目・・教科書 Part２の内容を理解しよう
５時間目・・言語材料の練習
６時間目・・教科書 Part３の内容を理解しよう
７時間目・・スピーチの原稿をつくろう
８時間目・・自分の学校についてＡＬＴに英語で紹介しよう

課題は？

- ●単元のゴールがどのような姿なのか明確でない。
- ●教科書の内容理解と文法の習得が中心の単元構成になっていて、つながりが見えない。
- ●単元のゴールにつながる学習が単元最後の２時間しかない。
- ●練習や理解に時間をかけた後に生徒が自ら英文をつくるような構成になっている。

単元末の生徒の姿を可能な限り具体的に描き、その姿に向けて、１時間ごとの言語活動につながりをもたせ、生徒が自ら思考しながら表現する授業を積み重ねていくことが必要です！

（１）単元の目標の明確化　～英文レベルで～

どのような英文を生徒に書いてほしいのか、話してほしいのかを英文レベルで具体的な形にします。

単元の目標（例）新しく来たＡＬＴのアン先生に、自分の学校のことについて、自分の考えや気持ちなどを交えて紹介するスピーチを行うことができる。
生徒に書いてほしい英文（例）　単元を構想し、単元の目標を設定する際に教師自らが文章をつくってみましょう。
Welcome to our school.　We're very glad to see you. Our school has about two hundred students.
In summer, ... I like our school because ....　I like my English teacher, Mr.〇〇 because he is very gentle. I want to be an English teacher in the future. Thank you.

（２）単元のゴールに到達するためのつながりのある単元構想　～１時間ごとのめあてと言語活動の明確化～

すべての授業の一つ一つの学習活動が次の学習活動につながり、単元のゴールに向かっていくように授業をデザインします。「教える→理解させる→練習させる」という流れにとらわれず、新出の文法や表現については、教師とのやり取りやモデルを通して場面や文脈の中で捉えさせ、「使わせる→気付かせる→理解させる」ようにしましょう。説明は極力簡潔に、生徒が英語を使いながら習得していく流れを大切にし、一つ一つの授業の学びを積み重ねることで、生徒がゴールの英文を達成できるようにしていきます。